

2018年5月26日(土)

英会話道場イングリッシュヒルズ
文書教材

生井利幸が講じる英語音声講義をしっかりと理解するための学習法

・・・あなたは、「英語の音」が見えますか

生井利幸

当・英会話道場イングリッシュヒルズの重要教材、即ち、[特別講義]「国際的教養・品格を備えた英日バイリンガルへの道」に掲載されている個々の英語音声講義の講義内容について「相当なる理解の到達」に至るには、まず第一に、静寂の中、自分の心を落ち着かせ、曇りのない心で、「学問に対する畏敬の念」(a feeling of awe toward science)を持つことが求められます。

この「学問に対する畏敬の念」は、わたくし生井利幸の学術講義をしっかりと認識・理解する上での一つの精神基盤となります。

生井利幸の講義内容をしっかりと理解するには、次の2つ、即ち、

- (1)「限定的、且つ、ローカルな意味での comprehension (理解)」
- (2)「深遠なる学問・学術としての comprehension (理解)」

は、それぞれ異なる概念・様相であるという理性的認識を持つことが大前提となります。

comprehension に関して、上記の2つの概念の相違について認識したことを大前提として英語音声講義を何度も何度も聴き込んでいくと、やがて、『平面』(flat)としての英語が『球体』(sphere)としての英語へと変貌していきます。

通常の場合、学習者は、英語は「音」(sound)であるため、「英語は耳で聴くもの」という思い込みをします。ところが、世界に通用する教養人においては、「英語は確かに音ではあるが、それは立体的であり、目に見える確かな実体である」という捉え方をします。

受講生の中で、生井利幸の英語を聴いているとき、「英語の音が見えるようになってきた」と感じられる人がいたら、その人の「英語の近未来」は、実に可能性に満ち溢れた近未来であると言えるでしょう。

受講生の皆さんが『球体』としての英語の世界を経験すると、実にスムーズに、(1)「知識(knowledge)としての英語」と(2)「教養(culture)としての英語」の相違について、“確かな実感”としてわかるようになります。

講義内容については、「限定的、且つ、ローカルな意味での comprehension」を経験した後は、さらに、当該講義について一体どのような見識・意識を持つことが必要なのか」という問題について問いながら、講義を繰り返し聴き込んでください。

何度も繰り返し英語音声講義を聴き込むことにより、「学びの道の奥深さ」、さらに、『本質』に向けた、学びの道の奥深さ・意味・価値等」について触れることが可能となり、少しずつ「国際的教養の養い方」についてもわかるようになるでしょう。

本稿において、講師から、次の言葉をプレゼントします。

「学習者は、真理と学問の面前において、常に謙虚でなければならない。」

補足：

一般社会には、TOEFL、及び、TOEIC 等で高得点を取る目的で、それらの受験対策用の問題集を使って勉強している学習者が実に星の数ほど存在します。しかし、そのような「単に、点数を取るための学習法」では、どのように勉強しても、永遠に、「英語の美しさ」を知り、「エレガント英語」を習得する道を歩むことは不可能です。

美しく、且つ、奥の深い英語の世界、即ち、「国際舞台で通用する真の英語力」を養うには、「平面としての英語の知識」のみを頭に入れるのではなく、「球体としての英語能力」を樹立することが必要となります。

残念ですが、平面的な英語の知識を身に付けても、世界に通用する教養人・文化人の面前では、何ら役に立つことはありません。では、「球体としての英語力」、即ち、「立体的英語力」を養うためには、“具体的には”、どのような勉強をしていったらよいのでしょうか。

そのための道筋は、今現在、本教材まで辿り着いた受講生に対して、講師は、実に相当回数にわたって、講義・指導・助言を行っています。今、その道筋について明確にはわからない受講生に対しては、「レッスン・スタート時から現在までの学習内容」について、たっぷり時間をかけて、丁寧に、総復習することを提案します。